（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２４　年度（令和６年度）学校評価自己評価表

中央中学校区	校番　１	福山市立　東　小学校
	最終更新日	2025 年（令和７年）2月5日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

・中学校の不登校生徒が増加している傾向にある。校区としての取組を進めてほしい。
・小中学校の授業参観から子ども主体の学びを育む様子が感じられた。引き続き子どもたちの主体性を育む取組を進めてほしい。
・評価項目の８項目において，十分満足，概ね満足できるという肯定的評価をいただいており，引き続き努力してほしい。

児童生徒の現状

○各学校において，子どもの主体の学びづくりの中で主体性が育ちつつある。
○小中で授業研究をすすめ，自分の考えをもち深め，対話する力をつけてきている。
●全国学力調査の結果から特に中学校における数学，国語の力を伸ばす必要がある。
●不登校傾向にある児童生徒数の出現率が中学校で高い。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	【学びに向かう力】　【課題発見・解決力】　【自己肯定感】
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	ふるさとを愛し，地域の中で，伸びやかにたくましく成長している
中学校区として統一した取組等	１　校区合同で実施する授業研究 ２　中学校生徒会による「学校紹介」の実施 ３　校区校長会，校区教頭会，校区各主任会等を通しての連携

Ⅲ　自　校

ミッション

自分達が望む未来を自分達で創りあげていく力をもつ子どもの育成
～「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを通して～

学校教育目標

主体的に学び　仲間とともに　未来を創る力を育む

現　状

＜家庭・地域＞
○保護者の教育的関心が高く，家庭での支援・協力が得られる児童の割合が高い。
●地域主催の運動（フット・ソフト・サッカー・水泳教室など）に参加している家庭は運動に対する関心が高い。一方で、運動に、あまり関わらない家庭は関心があまり高くなく，二極化している。
＜児童＞
○自分にできることを考え，創意工夫して実行しようとする児童が、少しずつ増えてきている。
●友達の気持ちに気づかず、トラブルになる傾向がある。
＜授業＞
○児童は課題を解決しようと様々な方法を取り入れようとしている。
○教職員は、教材研究を大事にして，授業づくりを進めようとする姿勢がある。
●児童が内発的動機付けに基き学習を進め、「学ぶことが面白い」と実感できる授業づくりが必要である。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）		学びに向かう力	課題発見・解決力	自己肯定感
めざす子ども像	低学年	目標を決め，自らを振り返りながら取り組む	友だちの考えをしっかり聞き，自分の考えをもつ	友だちと関わり合いながら，自分のいいところに気付く
	高学年	目標を決め，自らを振り返り，学び続ける	自ら「問い」を見つけ，自分なりの工夫をしながら課題解決をしていく	自分の良さ，友達の良さに気付き，自分のやりたいことに挑戦する

研究	テーマ	想像豊かに探求していく学びの創造
	内容等	○社会科と体育科の授業づくりを通してテーマに迫っていく ・「問い」や「資料」を中心に教材研究を行い，子ども主体の学びを創る＜社会科＞ ・地域素材を再評価し，自ら社会に関わろうとする意欲を育てる＜社会科＞ ・自分の課題に気づき，自分達で決めた方法で試行錯誤しながら協働して解決する＜体育科＞
めざす授業の姿		・子どもが想像を働かせ，自ら探究的に学習を進め，新たな「問い」や新たな「価値」を創り出す授業 ・知的好奇心や意欲など内発的動機付けによって「学びが面白い」と実感する子ども主体の学びを創り出す授業 ・教師が子どもの学びを最大限に引き出し，自ら学べるように環境をつくり，学びを支えている授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　東　　小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（２月末） □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
5	主体的・対話的で深い学びの推進	★	見直し	教材研究を中心に教職員研修の充実を図り，「子ども主体」の授業改善に努める。	○児童が自ら問いを見出し、想像を働かせながら探究的に学びを深める授業を創り出す。 ○教職員それぞれの興味や専門性を生かした、教職員が起点となる研修を行う。	・学力調査等で児童の学力の伸び市平均以上 ・福山100NEN教育アンケート「研修により新しい発見や取組を見直すことがある」教職員の肯定的割合80%以上	・教師の興味や専門性を生かした研究授業を７回（講師招聘２回）行った。「学びの伸びを把握する調査」で、学力を伸ばした児童の割合市平均以上 ・教職員アンケート「研修により新しい発見や取組を見直すことがある」肯定的割合100%	4	3	○根拠を明確にして自分の考えを説明したり、他者の考えを説明し直したりする対話活動を取り入れた授業づくりを行う。 ○児童の疑問から「課題」をつくったり「問い」に対する「気付き」から次の「問い」を見つけたりするような探究的な授業づくりの研修を行う。	○自分の立場を明確にして、根拠と共に考えを述べる授業に取り組んだ。相手の考えを引用して発言したり、一定の理解を示しつつ考えの違いを述べたりすることができるようになった。 ○探究的な学びとなる単元構成を目指した社会科授業を４年生で公開した。他学年の実践にも広げていきたい。	4	3	4	○研究の視点を中心に校内研究体制を見直し、研究授業や幼小中連携等の取組を通して、教員の指導力の向上を図り、子ども主体の学びづくりを一層進めていく。
1	自己肯定感の向上		見直し	児童が、自己の課題や挑戦したいことを見つけ，自分に合った解決方法で取り組んだり，振り返ったりすることができる。	○学校行事や授業で，自己決定の場を設け，その取組に対しての価値づけを教員や子ども同士で行う。 ○児童が主体的に自分の健康促進や体力づくりを行う	・児童アンケート「自分で決めたことや，自分の目標に向かって取り組み，以前よりも伸びた」肯定的割合８０%以上 ・「全国体力・運動能力，運動習慣等調査」運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」児童の割合県平均以下	・目標や解決方法、活動内容など児童が自己決定する場や考えを交流する場を設定した。児童アンケート肯定的割合 93% ・児童主体の縦割り班活動で運動に取り組んだ。児童アンケート「体育や運動嫌い、やや嫌い」割合 11.9%	3	3	○継続して自己決定の場や考えを交流する場を設定する。 ○自分の良さや伸びに気付けるよう、学級や縦割り班活動等、多様な集団で児童同士の関係をつないでいく。	○目標達成のための自己決定や交流の場を設け、取組に対する振り返りを子どもたち自身が行った。児童アンケート肯定的評価割合９４% ○朝体育やわくチャレ、大縄大会等の取組を体育委員会や６年生を中心に行い、主体的に健康や体力づくりを進めることができた。 ○運動嫌い児童の割合は県平均を下回った。	4	4	4	○子どもが自己決定し、自分なりの方法で解決したり挑戦したりできる場の設定のため、目標を明確にした計画的な指導を行っていく。 ○来年度以降も引き続き、児童が運動を主体的に行うことができる取組を企画・運営していく。
4	教職員が元気・笑顔で勤務できる環境の充実		見直し	教職員が個性を発揮しながら，子ども達とともに自ら挑戦し学び続ける環境を創る	○自ら挑戦しようとする環境を整えるために、教育の質の向上の視点をもちながら業務改善を進める。	・「福山100NEN教育アンケート」肯定的なやりがいを感じている教員の割合市平均以上	・10月1日現在、勤務時間外 45hを超えた教職員０人病休等による休職者０人 ・教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」肯定的割合 84.6%（市平均 93.1%）	3	3	○教職員が、授業や学校行事等で、達成感を感じることができるように、学級間や学年間で連携する時間を確保する。	○年間を通して超勤45ｈを超えた教職員０人。病休等による休職者０人 ○教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」肯定的割合 84.6%（2回目アンケート未結果）	3	3	3	○授業改善だけでなく学校行事も含めて児童が元気に楽しく教育活動を行えるようカリキュラム編成を見直していく。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。